

# インターネット利用による全学教育「総合英語」実践研究報告<sup>1)</sup>

総合情報処理センター 野崎剛一

E-mail: nozaki@net.nagasaki-u.ac.jp

長崎大学非常勤講師 鈴木千鶴子<sup>2)</sup>

E-mail: BXA00745@niftyserve.or.jp

## 1. はじめに

日本の教育の課題として、社会・世界の情報化と国際化への対応が掲げられて久しい。さらに、従来の知識・技能偏重教育を是正し、判断力・問題解決能力の育成およびそれに伴う個別化・個性化の養成が目指されている。また、大学においては大学改革の一環として教養課程の改編が検討され、実行に移されてきた。そのような状況の中で、大学における「英語教育」「英語授業」の改変も必至のことである。一方、情報化と国際化を同時に具現したものとしてのインターネットの発達・普及は近年殊に著しく、それによりさらに社会・世界が大きく変わりつつある。また、インターネットは教育そのものの在り方を変えとも言われている。では、インターネットによって「英語教育」「英語授業」は如何に変革されうるのか、本小論は、その可能性と方向性を検証する研究の報告である。同時に本研究は、長崎大学において 1994 年度より稼動開始したキャンパス情報ネットワーク (NUNET) の全学教育授業における活用方法の一例を提示するものである。

## 2. 経緯

1992 年度より先行的に進めてきていた純心女子短期大学の学内 LAN を利用したネイティブ・スピーカー教師との英語コミュニケーション実践教育研究を、1994 年度に学外・海外とのコミュニケーション実践へ発展させるため、純心女子短期大学、長崎大学、ハワイ大学カピオラニ・コミュニティー・カレッジ (以下略称で KCC と表記) の三大学の協力による、国際学術研究「インターネット利用による国際コミュニケーションおよび異文化理解教育に関する共同研究」を検討・計画し、その一部として 1995 年度後期に、長崎大学全学教育「総合英語Ⅱ」(Te クラス対象) において、パイロット・スタディーを実施した。引き続き 1996 年度前期に、「総合英語Ⅲ」(2Td クラス) において本実験Ⅰを、後期に「総合英語Ⅱ」(同クラス) において本実験Ⅱを、さらに 1997 年度前期に、「総合英語Ⅲ」(2Tb クラス) において本実験Ⅲを、後期に「総合英語Ⅳ」(同クラス) において本実験Ⅳを実施した。Ⅰ～Ⅳのそれぞれの本実験について、コントロール・グループとして 1996 年度「英語コミュニケーションⅢ」(2Th クラス)、「英語コミュニケーションⅣ」(同) および 1997 年度「英語コミュニケーションⅢ」(2Tf クラス)、「英語コミュニケーションⅣ」(同) の授業を、同種のテーマを取り上げながらインターネットを一切使用せずに、同時平行的に実施した。以下の本論は、本実験Ⅰ・Ⅱおよび本実験Ⅲ・Ⅳの結果に基づく実践研究の報告である。

## 3. 方法

実験授業は基本的に、本文末の資料 1 に例として挙げたシラバス (学期初めに学生に配布) に沿って実施された。従って、英語による国際コミュニケーション力の養成と・異文化理解促進を目的として、英語圏文化の一つとしてのアメリカ合州国あるいはイギリスの現代の社会・

文化・生活に関する情報を各学期6～7項目にわたって取り上げた英文テキスト（日本語による注解付）の内容を理解した上で、各テーマについて英語で各自の感想・意見を発表・交換するクラス・ワークを軸に、関連事項の調査・情報収集および英語によるその報告をホーム・ワークとしたアクティビティーを、それぞれ次のインターネットの機能を用いて行った。

i) メーリングリスト

[1996年度]

\*JNK-L（ハワイ大学サーバー、MajorDomo：共同研究者 Ms. J. Cook3）上で、ハワイ側の14名（KCCのESL、JSL、English 100クラス学生ボランティアおよびESL教師2名）と科目担当者（著者）を含めた70余名のリスト登録者間で各自の感想・意見交換（共同のヴァーチャル・クラスルーム内での発言）

[1997年度]

\*同じくJNK-L上で、ハワイ側の24名と前年度と同様の利用方法

\*cls\_l（名称クラス・エルのメーリング・リストを長崎大学総合情報処理センターサーバーにMajorDomo新設）上で、科目担当者と実験クラス受講長崎大生（前期約60名、後期約50名）間で、連絡事項を含め、国内、クラス内に適した話題・テーマについての情報交換（授業時間中および授業後のクラス内での発言・会話）

ii) E-メール

JNK-Lもしくはcls\_lで公にされた話題を個別に発展させ、随意に個人間で自由に質問等英語で会話のやり取り（授業後の教室の外での個人的なお話し）

iii) ニュース・グループ

（長崎大学内に設定したローカルのニュース・グループ、EnglishSuzuを含む）授業で取り上げた関連テーマについて、各自メーリング・リスト外の人々との英語による交信の試み（教室内または教室外での討論を目的とした系統立った話し合い）

iv) WWW

インターネット上の各種Webページより関連テーマについて、さらに各自で得た調査結果を、いずれかのメーリングリスト上のクラスへ英語により報告、情報交換（教室外での個別の調査・研究と教室内でのその結果発表）

v) チャット

WWW上で利用可能な英文によるチャット・サイト（例えば<http://chat.yahoo.com>等）を各自検索、登録し、随時リアルタイムでライブ・トーク（ヴァーチャルな海外での個人による会話実践・他流試合）

以上のアクティビティーを、総合情報処理センター第一端末室および新端末室（1997年度前期）での授業時間中のクラス・ワークとして、または大学内（片淵キャンパスを含む）の学習者用パソコンの端末を利用したホーム・ワークとして、適宜振り分けて課し、各自毎週最低2回の発信を原則とした。

また、1996年度後期の本実験・の授業においては、学期初めに、UNIXマシンの操作についての英語によるオンライン・マニュアルを教材としたインストラクション・セッションを2週に渡り行った。これは、英語教育学でTask-based Reading ComprehensionおよびESP(English for Specific Purposes：本実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ全グループ延べ約200名は、工学部2年電気情報工学専攻生が約42%を占める構成)と称されるアプローチまたは領域のアクティビティーである。

#### 4. 結果

交信総数は、本実験Ⅰ・Ⅱ（1996年度）を通して、科目担当者が受け取ったメール数、およびローカルのニュース・グループ、EnglishSuzu上の発言を併せ、途中記録喪失部分を除き約1300件、本実験Ⅲ・Ⅳ（1997年度）では1600件にのぼった。ジャーナル（日誌）による被験者学生の学習状況は、1996年度前期の本実験Ⅰでは概ね①インターネットを利用した英語学習への期待と張り合いと②コンピュータ操作上のトラブルに対する不満および・英語力の問題点の認識と向上の兆しに対する驚きと喜びが目立ち（資料2参照）、後期の本実験Ⅱでは①意見交換を経て至った内容についての各自の考え、結論、と②日本や日本人の特徴に対する意識および③インターネットの威力に対する再評価が目立った（資料3参照）。コントロール・グループとの相違点としては、①授業日以外にも活動記録②行動の事実記述以外にも、内容に対する感想・考え③自己反省、内省的観点が、目立った。1997年度については、ジャーナルの回収が徹底しなかった為、定性的な分析・記述は避けるが、ほぼ同様の観察がなされた。

事前・事後 Writing-Task による英語表現力、コミュニケーション力の伸びに関しては、詳しい分析を待たねばならぬが、ネーティヴ・スピーカー教師、Ms. Julie Keaten-Reed<sup>4)</sup>による blindfold judgement の結果、コントロール・グループとの比較で実験グループに観られる特性として、次の点が挙げられた。

'appropriateness,' 'modals use,' 'sensitivity of cross-cultural awareness,'  
'realistic standpoint,' 'thoughtfulness,' 'more difficult vocabulary,'  
'topics'

このことから、コミュニケーション能力の構成要素中、言語的特に文法力よりも、「話題」や「対異文化感受性」など内容上の変化、および表現上も「適切さ」や「様相や感情を表わす法助動詞の使用」など、日本の英語教育の課題とされている①ディスコース（談話構造）や②社会言語学的知識および③コミュニケーション方略に関わる能力、の伸長が窺える。<sup>5)</sup> 事前・事後の異文化感性テストの結果については、分析方法の検討・決定の後の報告に稿を譲り、ここでは、実験グループ、コントロール・グループともに回答幅を表わす標準偏差の伸びが観察されたことを報告するに止める。

事前・事後アンケート<sup>6)</sup>により、6項目の態度変容（4段階、「理解」項目のみ10段階選択回答）および成果に対する一般的なコメント評価（記述回答）を測定・観察した（資料4参照）。i) 態度変容に関しては、1996年度本実験Ⅰ・Ⅱの結果、①実験グループ（有効データ数40）、コントロール・グループ（有効データ数44）ともに、各被験者ごとの事前・事後の差の平均値において6項目全てに対して、好感度ないし理解度が、上昇変化した・コントロール②グループが実験グループを上回って変化した項目は、「英語」そのものに対する好感度のみで、③その他の項目：「英語を母語とする人々」「英語圏の文化」「コンピュータ」「インターネットの有用性」「異文化理解」全てについて、実験グループの好感度ないしは理解度の上昇変化がより大きかった（図1参照）。この結果について再現性を検証するため、1997年度本実験Ⅲ・Ⅳの結果について比較検討した。その結果、①について、コントロール・グループ（有効データ数37）において、「コンピュータ」に対する好感度がマイナス変化を示した点以外は、実験グループ（有効データ数32）の結果は、②③ともに、数値的に違いはあるが同種の傾向が確認された。（図2参照）

また、ii) コメント評価に関しては、1996年度の調査から代表的に取り上げ以下に例示するように、次の結果が得られた。①前期の本実験Ⅰの経験を踏まえ、事前アンケートではコントロール・グループの方がより楽観的期待と展望を示したのに対し、実験グループの中には、「英

語もコンピュータもあまり得意ではないので、授業の成果は期待できない。」(e6j1067 等)とした学生も 2、3 割存在した。②しかしながら、事後アンケートにおいては、コントロール・グループで、「・・科目(名)どおりのコミュニケーションであった・・」(695619)「・・英語を話すことに慣れて日常的に使う英語がしだいにでてくるようになったと思う・・」(695614)「・・つまり英語をより身近に感じた・・」(695552)「英語というと高校生の時などの単なる勉強というイメージだったが、英語は言葉であるということを感じた」(695622)「・・普段ではほとんど知る機会のない言葉やコミュニケーションの仕方についても学ぶことができた・・」(695607)等、英語(言語)学習の成果を認めるとともに、「英語の文法を学ぶだけでなく、英語を話す人々のものの考え方というものを考えることができた」(695603)「この授業を通して異文化に対する知識がより深くなった気がする。それと同時にいろんな視野・視点で物事を考えていかなければいけないと危機感も感じた」(695562)「・・世界にはいろんな考えや信念または生活形態があり日本にいるばかりでは世界に取り残されていくようにも思えた・・」(695601)「異文化に対して理解しやすかったし、それによって今後はより一層異文化理解の必要性が高まると感じた。国際化の流れに対しても重要であると思う。今後の外国人に対する対応にも役に立ったと思う」(695608)等、異文化理解に対しても概ね満足感が得られた様子であった。実験グループでも、「インターネットを使用することにより、非常に手軽に異文化に触れることができ、また英語を使うので学習の方でもプラスになる。楽しく英語が学習できた」(e6j1017)「英語の文章を作る事により、外国人(英語を話す人)と話す事ができるようになった」(e6j1011)「会話を行うことの楽しさは良くわかった。片言の英語でも使ってみるものだと思えてきた。日本人より考え方が大きいと感じた」(e6j1040)等、不完全でも英語を実際に使うことによる言語学習の成果を認識すると同時に、「インターネットによって外国の人と話すことで異文化を少しは理解できたと思う」(e6j1036)と言う控え目なものから、「教科書で与えられた題材を基に、自分なりに考えをまとめてメールに投稿したり、自分以外の人間がどういった意見や考えをもっているかを見ることにより、そして時には外国の方からのリプライメッセージを見ることにより、幅広く異文化理解できたと思う」(e6j1027)「インターネットを使うという点で、他の英語の授業に比べ格段の差があると思う。ネイティブスピーカーと画面上ではあるが直接会話が出来たことが理解を一層深めた。異文化というものを直接肌で感じたというのは、言い過ぎであろうか？」(e6j1039)等、異文化理解の成果を積極的に評価し、さらにその内容として、「自国文化に対しての異国文化の違い、例えば思想、観念について、又共通する部分があるということを確認することができたと思う」(e6j1051)、およびその結果として、「他の文化を理解することや良い所を勉強することは非常に重要であるが、それ以上に自分の国に誇りを持ち自分の国の文化を大切にすることが重要であることが分かった。例えばアメリカ人が日本人に『なぜそんなに一生懸命働くのか?』と聞いた時、『分かりました、休暇を増やします』というのではなく『日本人は働くのが好きな民族なのです』と答えたいものです」(e6j1061)等、独自の見解を抱くに至った学生もいた。また、「コンピュータの持つ異文化コミュニケーションの可能性を感じた」(e6j1065)や「まだ英語も文化も簡単には理解できるものではないが、この授業でコンピュータを使用することによりコミュニケーションの手段が分かった気がする。これから先もインターネットなどを通じて英語学習と異文化理解につとめたい」(e6j1044)のように、本実践研究の目的の一つである自主的で自律的な学習の基礎を築くことも達成されつつある形跡が窺える。<sup>7)</sup>

以上の i) および ii) の結果を総合すると、コントロール・グループでは授業は楽しく英語によるコミュニケーションと異文化理解についてある程度学ぶことが出来たという印象は強い

が、意識下での態度変容においては、「英語」そのものに対して好感度が上昇した以外は、とくに「人々」や「文化」に対しては、変化するまでには至っていない、もしくは緩な上昇に止まっている。それに対し、実験グループでは、授業についてのコメントの表現としては、さほど高い評価をしているとは思われない、否、後述の課題で取り上げるような方法についての批判も少なからずある中で、各学生の内面においては「文化」に対する問題意識が深まりつつあることと、無意識の態度変容において「人々」「文化」および自分自身の「異文化理解」に対して、統計学的には有意差までには至らなかったがコントロール・グループと比較して、より大きい上昇変化（図1および図2参照）が起こったと結論される。

## 5. 課題

1996年度の本実験Ⅰ・Ⅱおよび1997年度の本実験Ⅲ・Ⅳを終え、i)実践授業の方法に関して、被験者学生100名余りのジャーナルおよび各事後アンケートから、例えば「授業内容の目的がよく分からなかった。やっていることも難しかった。だから、異文化を理解することはあまりできなかった」(e6j1042)や、とくに「コンピュータの演習が目的の授業なのか、外国文化を知ることが目的の授業なのかどちらか分からない・・・故にあまり言語学習や文化の理解についての成果はあまりなかったと思う」(e6j1058)の少数意見を無視することは出来ない。その原因として、①本来新しい概念と方法を導入している為、学生にとってまったく未経験の授業の目的や方法の理解がしにくい面があることと、「・・・しかし、授業の時の指示が伝わらず、何をしてもよいか分からないが多かった」(e6j1047)のコメントが示すように、②科目担当者の授業計画・準備およびインストラクションに反省すべき点があった、の2点が考えられ今後の課題である。また、「・・・メールを送るのも、ほとんど日本からハワイで、ハワイの人達の考え、意見などにふれることが少なかった」(e7b9043)というコメントでも明らかであるが、③メール交換の相手(所謂 Partner Classes や Keypals)選に関して、広く利用できるWWW上のソースや、MOOsの開発など工夫と研究が必要である。<sup>8)</sup>これに関連してさらに、④情報処理の技術上の改良点として、「・・・メールの数がたまって増え過ぎて、どこまでしたか、とか自分宛に来ているかとか探しづらかったのが印象に残っている。もう少し改善できないものかと思った。」(e7b9012)のような示唆も与えられた。ii)研究の方法に関して、事前・事後アンケートの結果分析で統計学的に有意差が出ず、観察の域を出ない結論であったが、①アンケートのフォーマットに再考の余地が無いか、検討が必要である。加えて、事前・事後 Writing-task Testの結果評価で示唆されたコミュニケーション能力の3要素における伸長をデータの裏付ける為に、②交信記録を疑問文の出現状況等に焦点をあてた時系列的分析が必要である。

## 6. おわりに

最後に、本実践研究の遂行にあたりご協力いただいた長崎大学情報処理センターのスタッフの方々ならびに国際学術研究の共同研究全メンバー、そしてこれまで熱心に授業に参加してくれた学生の皆さんに謝意を表します。

### 注

- 1) 文部省科学研究費補助金(国際学術研究)による共同研究 課題番号 07044044
- 2) 純心女子短期大学英米文化科教授
- 3) ハワイ大学カピオラニ・コミュニティー・カレッジ ESL 準教授、合同プロジェクト・メンバー

- 4) 純心女子短期大学英米文化科講師、合同プロジェクト・メンバー
- 5) Suzuki, C., K. Nozaki, et.al. (1998) "Internet Use and the Development of Communicative Competence of Japanese EFL Learners." 『純心女子短期大学紀要』第35集、に詳細を報告
- 6) Ms. J. Keaten-Reed, Mr. John Baldrige (純心女子短期大学英米文化科講師、合同プロジェクト・メンバー) 作成による
- 7) この点をテーマに1996年度の実践研究を、Suzuki, C., K. Nozaki, et.al. (1997) "Increasing Opportunities for Interaction and Facilitating Learner Autonomy by the Use of the Internet." Annual Review of English Learning & Teaching, No.2.、で報告
- 8) Boswood, T. (ed.) (1997) New Ways of Using Computers in Language Teaching. TESOL, Inc. pp. 71-128. を参考

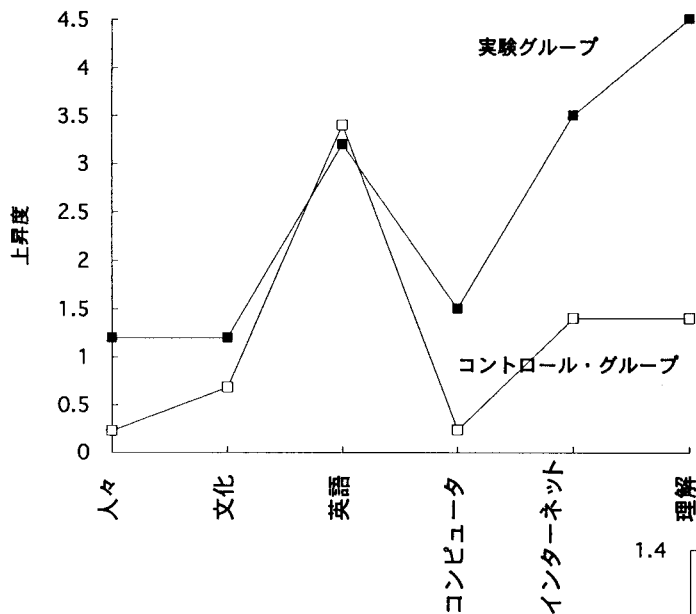


図1 態度変容比較 (1996年度)

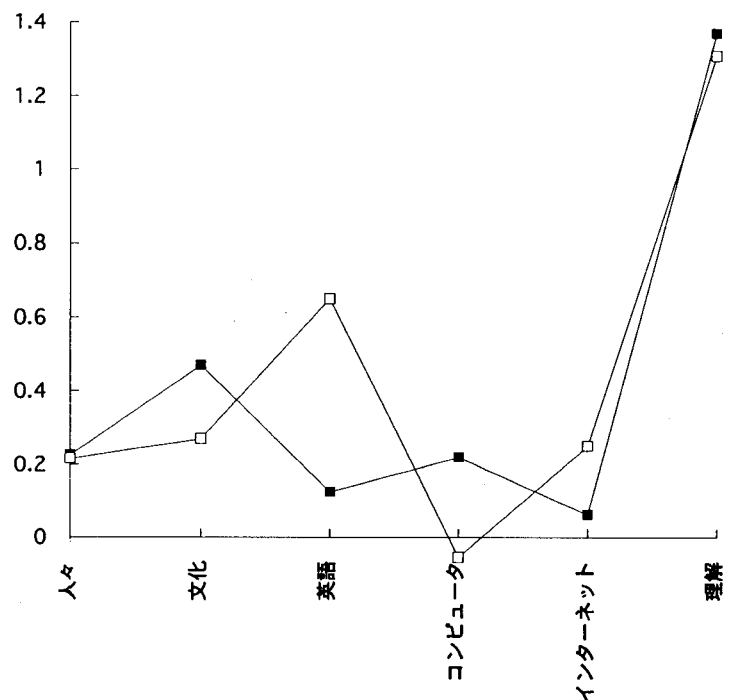


図2 態度変容比較 (1997年度)

## SYLLABUS

Sogo-Eigo IV (Comprehensive English IV), Fall/Winter Semester

- Course No.: 04122
- Class Hour: Thursdays, 8:50 - 10:20
- Room: 103 & Sogo-Jyoho-Shori Center
- Purpose: This course aims to provide the students with opportunities to practice over-all skills for the English language: listening, speaking, and writing as well as reading, all of which are necessary to communicate with people all over the world. The students will also develop their own ideas and viewpoints toward different cultures, including the Japanese culture itself. Such a standpoint and an attitude of comparative cultures are essential for becoming global citizens of today. The students are expected to participate actively in the classes and to carry out all the assignments or homeworks by the due. These activities in and outside class will include actual communication practices with people overseas through INTERNET, and with a native speaker who is to be invited into the classroom.
- Textbook: M. Oda & Y. Taniguchi, *U.S. Update: For Classroom and Independent Study*, ASAHI PRESS, 1996.
- Requirements: Attendance & Classwork. . . . 25%(INTERNET), 10 % (the rest)  
Assignments & Homework. . . 25%(INTERNET), 10%(the rest)  
Journal/Diary Submission. . . . 10%  
Final Examination. . . . . 20%
- Schedule: Oct. 17 Course Description, Pre-Questionnaire, Pre-Writing Task  
Oct. 24 1st Exchange: topics on "Food & Drinks" (Unit 7)  
Oct. 31 2nd Exchange: topics on "Apartment for Rent" (Unit 11)  
Nov. 7 3rd Exchange: on "Save the Earth" (Unit 9)  
Nov. 14 4th Exchange: on "Shaping the Nation" (Unit 10)  
Nov. 21 5th Exchange: on "Entertain Yourselves" (Unit 8)  
Nov. 28 6th Exchange: on "Advertisement of an Opinion" (pp.61-64)  
Dec. 5 Talk with a native-speaker of English  
Dec. 12 7th Exchange: on "Sophisticated Travelers" (Unit 12)  
Dec. 19 Review & Preview  
Jan. 9 Orientation to New Computer  
Jan. 16 WWW Practice 1  
Jan. 23 WWW Practice 2  
Jan. 30 NewsGroup Practice 1  
Feb. 6 NewsGroup Practice 2  
Feb. 13 Post-Writing Task, Post-Cul. Sens. Test, Journal Submission  
Feb. 20 FINAL EXAM, Post-Questionnaire

WELCOME YOUR ACTIVE PARTICIPATION! STUDY HARD!! GOOD LUCK!!!

① 授業への期待、取り組み、態度に関するもの

- 4/11授業について説明があった。ちょっと変わった形式だと思った。(e6j1015)
- 4/11授業は今まで大学で受講した英語とは、かなり内容が異なっていると感じた。今まで受講していた英語は教科書の訳をやり、後のQuestionsを解くといったものであった...(e6j1066)
- 4/11インターネットをしようとっていたが英語力に自信がないので不安だ。(e6j1031)
- 4/11初めての授業だったので、どんなことをするか楽しみにしていた。インターネットをすると聞いたので、これからの授業が面白そうだと思う。(e6j1021)
- [4/18...ハワイの学生たちに自分の英語が通じるか不安だ。]
- 4/11コンピュータを使っての授業ということでちょっと大変だろうけどがんばっていこうと思う。(e6j1013)
- 4/11今回の総合英語はインターネットを行うということなので、1年の頃に行った情報処理演習で得た知識を使ったりしてがんばりたい。(e6j1019)
- [4/18ハワイの大学とインターネットをするそーだ。日本の大学ではなくて。例えば名大とか神大とかだと思っていたのに。ほとんどカイクに等しい英語力を使ってがんばりたい。]
- インターネットを使わない授業日について
- 5/23今日はパソコンを使わなかったので楽しんだ。(e6j1034)
- 5/23パソコンに触れなかったので、物足りなかった。(e6j1012)
- 5/23この日はパソコンを使わなかった。やっとパソコンになれてきていたので残念だった。(e6j1018)
- 5/23今日は単なる答え合わせだけだったのであまりおもしろくなかった。次回の授業で早くコンピュータを使いたい。(e6j1021)
- 5/23この日は普通教室で授業があった。いつも端末室で授業をしているせいか、この日の授業はとても長く感じられた。(e6j1036)
- 5/23久しぶりに情報処理センターじゃなかったのが気が抜けてか、とても眠かった。もっとがんばらなければと思った。(e6j1061)

② 情報リテラシー、機械操作上の問題点

- 5/2 僕はJNK-Lに登録されていなかった。アクセスできなかった。どんどん皆より遅れていっている。なんかすごくヤバイ気が...。(e6j1019)
- 5/9 ...しかし、後日見てみると、載ってなかった。どこで失敗したのかわからなかった。(e6j1015)
- 5/16最近宿題やクラスワークがJNK-Lに届いていないことがわかった。ちゃんとsending doneと出ていたのに...いったいどこに送っていたのだろう。また宿題のやり直しだ。出席がちゃんととれているのか心配だ。(e6j1013)
- 5/23...いつまでたってもコンピュータの扱いがままならない。(e6j1063)



6/27 Heart attackについてのメールで、みごと"Mail error: no such user"になっている。ということは届いていないということになる。あの大作が!\_!というわけで自分はちゃんとできています。休んでいません。(e6j1037)

#### 情報リテラシーの向上について

5/9 この日は端末室での授業であった。いつものようにUNITの設問に答えるというものであった。このころになるとコンピュータの操作で時間がとられるということもなくなり、すんなりと終わることが出来た。(e6j1051)

5/30...E-mailの感覚がだいたいつかめてきた。近いうちに友人に送りたい。(e6j1066)

6/12 今日今週文の宿題を図書館にしに行った。最近スムーズにコンピュータを動かせるようになった。(e6j1046)

### ③ 英語力の問題

4/18 メーリング・リストにSubscribeしようとするが、hawaiiをhawaiと打っていることに気付かず出来なかったので人から出遅れる。(e6j1027)

4/25 今日は自己紹介をコンピュータで送った。何をどう書いて入れたらよいか、かなり、とまどった。やはり前もって考えていなければ、その場で入力するのは難しいと思った。(695245)

4/25 JNK-Lで自己紹介をした。いろいろ考えているうちに時間がなくなり、あまりうまく出来なかった。(e6j1020)

4/25 パソコンで自己紹介をしたけど単語が分からなかったりしてうまく表現できなかった。(e6j1024)

4/25 自分に電子メールがきていた。しかし、内容がほとんど理解できないのでメールを送り返すことすら出来ない。(e6j1031)

4/25 自分は英語が苦手な上にコンピュータの操作も下手なのでスムーズにいかなかった。(e6j1036)

5/2 ... ばかな文章ではずかしい。(e6j1037)

5/9 いつもながら自分の英語の力のなさにあきれてしまった。(e6j1036)

5/9 ... もっとあるのだろうが、なにしろ英語で書けない。(e6j1037)

5/30... 言いたいことの半分も書くことが出来なくて自分の英語力の無さを感じてしまった。(e6j1051)

5/30... やっぱり変な英文を書いている。(e6j1037)

5/30... 他の人に意見をするのはなかなか難しい。はずかしい宿題の答えをのせるのがやっただ。(e6j1062)

6/13... しかし英語で上手な表現を思いつくことが出来なかった。英語がもっとうまくなりたいと思った。(e6j1061)

6/27 本当はもっとくわしく知っているのに英語で説明するとうまく表わせなくてイライラしました。(e6j1014)

#### 英語力の向上について

6/13 今回はUNIT3の設問に答えた。メールは意外と書きやすく、自分としてはたくさん書けたと思う。(e6j1046)

6/13...あと、ずっと出そう出そうと思って出さずじまいになっていた鈴木先生へのメールの返事を出すことにした。少しまとまりがなく長くなってしまったが、出来た時、よくまあここまで長い文が書けたものだなあと、自分に感心してしまった。(e6j1027)

④ その他

交信体験

4/25 パソコンをうまく使えなくて苦勞したが、ハワイからメールが届いていたので安心した。(e6j1023)

4/30 今日メールを見たらハワイからメールが来ていた。自分ではうまく書けていないと思っていたので、驚いた。相手の人はJana Karaという人で、ハワイの大学に通う韓国出身の大学生だった。そこで返事を書いた。そしてJanice Cook先生への返事も書いた。(e6j1015)

5/2 ハワイからたくさんメールが届いていた。YOKO KASHIWAという子と文通がはじまった。(e6j1023)

6/13 鈴木先生のメールで、自分のhomeworkの課題が取り上げられたので、ちょっといい気分になってしまった。あと、フランクから自分のメールに対して返事が来ていたのがすごくうれしかった。(e6j1027)

6/19 今日クックさんから手紙の返事が来た。学生からの反応が無かったのが残念そうだが、改めて分かる気がする。だって自分がもし自己紹介する立場で聞き手から何の反応もなかったらやっぱりさみしい気持ちになると思う。限られた言語能力で語るのって難しいし勇気もいるけれど何も話さないよりはよっぽど気持ちが伝わると思う...(e6j1027)

6/20 クックさんのホームページを見てその感想を書くというものだった。インターネットというものがどういうものかわかった。自分もホームページを作りたいと思った。(e6j1038)

6/27 クック先生にメールを出していたが返事が返ってきた。日本はどうでしたかという質問に、楽しかったということだった。焼物を楽しんだようだ。(e6j1023)

異文化理解体験

4/18 アメリカ人は日本人を誤解しているようだった。(e6j1014)

5/23...からメールが来た。夏休みで友達とロスとラスベガスへ行くそうだ。(e6j1023)

6/4 ...音楽について聞いてみたら、よく知らないアーティストが好きなようだった。(e6j1023)

6/6 アメリカ政府の広告を見て、日本にはありえないという”カルチャーショック”を受けた。(e6j1066)

6/6 日米の軍隊の考え方の違いに驚いた。(e6j1044)

資料 3 [ジャーナル 後期分 (本実験Ⅱ)]

① 交信・討議の内容に関する見解

- 11/7 「地球を救う」というのは個人個人の気持ちの持ちようだと思う。小さなことから一人一人がしっかりと考えていかなければならないと思う。(e6j1061)
- 11/7 「地球は汚れている」「地球をもっときれいにすべきだ」といった内容が多かった。現実的にみても、人間が地球を汚したのだから、地球をきれいにして地球を守って行くという義務が人間にはあると思う。(e6j1015)
- 11/14 "Save the earth"のことで皆の意見を読んでとてもためになった。自分も環境のことなどをもっと考えなくてはと思った。(e6j1047)
- 11/14 …やはり、この問題は人間にとってどうしても避けては通れない問題だと思う。もっと一人一人が考えなくてはどのようなことだろう。(e6j1056)
- 1/23 Classworkとしてimmigrantsについてメールを出した。本文を十分に読み取れなかったが、自分なりの考えを送ってみた。後で、他の人のメールを読んでみて、もう一度考えてみるべき問題であると思う。(e6j1039)
- 1/23 アメリカでの移民問題について送った。移民についていろいろと意見があったが、それぞれの母語でわかるようなサービスがあればいいと思う。(e6j1015)

② 日本や日本人の特徴への意識

- 10/24 …日本人って結構あくせくしたイメージあるけど、案外くつろぎたいと願う人も多いのかなと思ってしまった。(e6j1027)
- 11/14 日本人は国家とか国民とかについて考えていないと思った。だから選挙とかも他人まかせではないのだろうか?(e6j1061)
- 11/28 …この問題は日本人には難しいと思う。アメリカでは多種多様な人種がいて、生活しているが、日本はまだそんなにまではしていない。(e6j1015)
- 11/28 民族という言葉は日本人にとってあまり関心がないと思った。(e6j1061)
- 11/28 …自分は日本生まれの日本育ちなので、そのような感覚はわかりにくいと言うのが正直な気持ちである。(e6j1056)
- 12/5 …その大きな違いとしては、日本や…が国家の規律を決めるとき、少数の偉い人達が決定していくのに対し、アメリカでは…(e6j1027)
- 1/23 …移民という言葉に対してあまり日本人は、なじみがないと思う。(e6j1066)

③ インターネットの再評価

- 10/24 JNK-Lにミネラル・ウオーターについてメールを出したら、ハワイから返事が返ってきてうれしかった。(e6j1023)
- 12/12 バーチャルトリップは実際行ってみたい気を起こさせるものだった。(e6j1021)

- 12/19 僕は"E.T."の映画について送ったのだけれども、後でSallyという人から返事が届いていた。(e6j1015)
- 1/16 世間でインターネットが騒がれているが、やはりインターネットはあなどれないと思う。(e6j1056)
- 1/23 インターネットで大学入試センター試験の得点速報を見た。とても面白かった。(e6j1061)
- 1/23 今日はWWWでいろいろな記事を観て、感想などを送った。実は初めてインターネットで海外の情報を観た。はっきり言って、感動した。(e6j1030)
- 1/26 ホームワークで、レジャーについてYahooを使いWWWでリゾートホテルやスキー場についてのホームページを見た。様々な情報が得られ熱中してしまった。(e6j1039)
- 1/30 先週の分をやった。つくづくインターネットは楽しいと思った。パソコン欲しい。(e6j1047)
- 1/30 ……WWWは面白いので、授業そっちのけでやってしまう。(e6j1065)
- 2/6 ニュースグループにたくさんメールが届くようになった。コミュニケーションらしくなってきた。(e6j1023)

#### 資料4 事前・事後アンケート

---

#### 事後アンケート

ID No. \_\_\_\_\_

##### パートI

あなたは目標言語（英語）を母語とする人たちに対して一般的にどのように感じていますか。

あまり好きではない      普通      どちらかという好きだ      非常に好きだ

あなたは目標言語文化に対して一般的にどのように感じていますか。

あまり好きではない      普通      どちらかという好きだ      非常に好きだ

あなたは目標言語、英語そのものに対して一般的にどのように感じていますか。

あまり好きではない      普通      どちらかという好きだ      非常に好きだ

あなたがコンピュータを使う時の気分・快適さは、次のどれにあてはまりますか。

厭な気分      まあまあ      快適      非常に快適

あなたは異文化間の交流に、インターネットがどの程度役立つと思いますか。

あまり役立たない      まあまあ役立つ      役立つ      非常に役立つ

##### パートII

あなたは、自分が、目標言語（英語）文化に内在する価値観、信念、習慣についてどの程度理解していると思いますか。10段階で表示（1＝初歩的な理解、10＝母語話者と同等）

### パート III

あなたは、この授業を通して、目標言語（英語）学習と異文化理解について、どのような成果が得られたと思いますか。

---

---

---

---

---

---

以上

---

### 資料 5

#### 参考文献

- [1] 鈴木千鶴子、大路正倫（1993）「英語コミュニケーション養成のためのパソコン通信システムとその教育利用について」『平成5年度文部省主催 情報処理教育研究集会論文集』
- [2] 野崎剛一（1994）「ネットワークの運用・管理について」長崎大学総合情報処理センター『センターレポート』第14号 pp.117 - 121
- [3] 野崎剛一（1996）『コンピュータとネットワーク（インターネット活用）』
- [4] Suzuki, C., M. Oji, J. Keaten-Reed, J. Baldrige, K. Nozaki, F. Noji, Y. Ishigami, J. Cook, & S. Singer. (1996) ‘‘Cross-Cultural Communication and Understanding through Internet,’’ Programme Abstracts of 11th World Congress of Applied Linguistics. p. 197.
- [5] Suzuki, C., J. Keaten-Reed, & K. Nozaki. (1997) ‘‘Increasing Opportunities for Interaction and Facilitating Learner Autonomy by the Use of Internet’’ Annual Review of English Learning & Teaching, No. 2, pp.37-51.
- [6] Suzuki, C., K. Nozaki, J. Keaten-Reed, M. Oji, & J. Baldrige. (1998) ‘‘Internet Use and the Development of Communicative Competence of Japanese EFL Learners’’, 『純心女子短期大学紀要』第35集, pp.117-124